



2016 年特別展 モササウルス展（～11/6）紹介



白亜紀後期に生息していた海の王者モササウルスを、穂別産標本、国内の代表的な標本、国外の初公開の標本によって詳しく紹介しています。

日本からはモササウルス類が全 39 個体産出していることが知られています。その中でむかわ町穂別からは 10 個体（1 個体が国立科学博物館所蔵、当特別展で展示）が産出しています。穂別博物館には穂別産 9 個体と日高町産 1 個体、平取町産 1 個体の計 11 個体が収蔵・展示されていて、日本産のモササウルス収蔵数としては日本一を誇ります。これら資料の質も高く、北海道三笠市産で 2008 年に新種とされたタニファサウルス・ミカサエンス（三笠市立博物館所蔵、当特別展でレプリカ展示）以外の、日本産モササウルスの新種（モササウルス・ホベツエンス *Mosasaurus hobetsuensis*、モササウルス・プリズマティクス *Mosasaurus prismatics*、フォスフォロサウルス・ポンペテレガンス *Phosphorosaurus ponpetelegans*）が当館に収蔵・展示されています。特別展では、このほかに日本を代表するモササウルス類として、研究中的の和歌山県鳥屋城山産モササウルスのレプリカ（複製）（和歌山県立自然博物館所蔵）（北海道初公開）も展示しています。



後足のあるウミヘビ；ハーシオピス（レプリカ）



ラッセロサウルス頭骨（レプリカ）

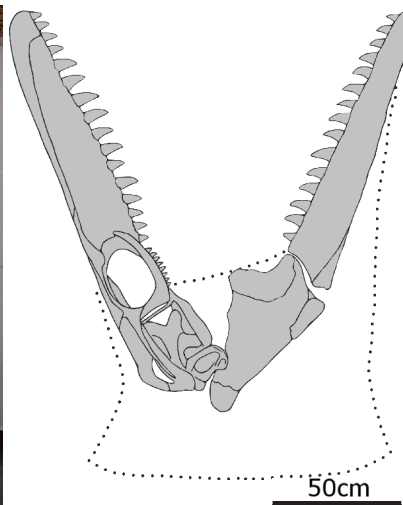
国外産の資料としては、白亜紀セノマニアン期のイスラエル産で後足のあるウミヘビ：パキラキス（*Pachyrhachis problematicus*）2 個体とハーシオピス（*Haasiophis terrasanctus*）が展示されています。これらはモササウルス類とヘビ類との系統（^{けいとう}類縁）関係を明らかにする上で鍵となる分類群（^{ぶんるいぐん}）であると考えられ、世界的に注目されている種類です。アメリカ産モササウルス類ラッセロサウルス（*Russellosaurus coheni*）は主要なモササウルス 2 グループ（プリオプラテカープス亜科とティロサウルス亜科）の祖先（^{そせん}）として知られる種類で、モササウルスの進化を明らかにした重要な標本です。これらレプリカ（複製）は、アメリカ サザンメソジスト大学と当館とのレプリカ交換（^{こうかん}）で入手した資料です。これらは今回の特別展で初公開しました。

学芸員 櫻井和彦・西村智弘

世界最大級のモササウルス頭部パネル制作



「世界最大級のモササウルス」
原寸大パネル



パネルの設計図。頭骨は
学術論文を基に制作。

Grigoriev, D.V., 2014. *Proceedings of the Zoological Institute RAS*. Vol. 318, No. 2, pp. 148–167.

モササウルス類で最大級のモササウルス・ホフマニイ

Mosasaurus hoffmanni の頭部をげんすんだい原寸大で再現したパネルを作りました。基にした標本はロシアのペンザから発見された全長約1.7メートルの下顎骨（^{かがくこつ}）ほかで、^{すいてい}推定全長は17mに達すると考えられています。小西卓哉助教（アメリカ シンシナティ大学）の監修（^{かんしゅう}）のもとで製作しました。

地域おこし協力隊 太田晶

2016 年 9 月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

2016 年 10 月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

休館日 ○ 町民無料観覧日

むかわ町穂別博物館

開館時間 9：30～17：00（最終入館 16：30）

観覧料 個人 / 小～高校生：100 円

大人 300 円

団体 / 小～高校生：50 円

大人 200 円

※団体は 10 人以上 ※小学生未満は無料

